

令和3年度 延岡市立三川内小中学校 学校関係者評価

学校経営ビジョン

子ども一人一人の将来を見越して、キャリア教育を基盤に、9年間の発達段階に応じた確かな学力の定着と豊かな心の育成に取り組み、「一人一人の可能性を切り拓く学校」を目指す。

4段階評価（4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

	本年度の重点項目	具体的数値目標	方策・手立て	アンケート結果			自己評価		結果の考察・分析(○)及び改善策等☆	学校関係者 評価	学校関係者評価委員(学校評議員)コメント
				保護者	児童・生徒	職員	指標別	総合			
夢への挑戦	1. キャリア教育の推進	○ 夢をもっている児童・生徒(小学部下学年50% 小学部上学年・中学部100%)	○ 発達段階に応じたキャリア教育の実践 ○ キャリアパスポートの活用	2.9	2.9	2.9	2.9	3.0	○ キャリア教育の推進については、数値目標3.0以上を達成できなかった。「自己理解」、「将来への夢や日常生活での目標」を問う質問への数値が低く、GIGAスクール構想の推進やSDGsへの取組など急激な社会の変化や新型コロナ感染症拡大防止への対応から具体的な目標を見いだせない状況があったと考える。 地域との連携活動の推進については、学校行事、体験的活動、ボランティア活動や講師招聘による職業講話が充実しており、目標数値を達成できている。但し、児童生徒については「郷土愛」は醸成されているものの、主体的に地域活動に取り組んでいる意識は低いようである。 ☆ 児童生徒数の増加や地域活性化を考え、地域財産(自然や伝統文化、林業や農業)を生かした教育活動に継続して注力する。具体的には小中学校9カ年の発達段階に応じて計画的に地財を生かした体験活動に取り組み、維持することにより、地財の活用について創造できる子どもの育成を図る。	3	・ キャリア教育の推進と夢をもつ児童生徒の育成について、ICT教育の進捗状況確認の質問があり、小規模校教育ならではのキャリア教育の工夫による児童生徒の視野の広がりを期待する意見があった。 ・ 「夢」をもつために、「知る」ということを大切にして頂きたい。 ・ ICTなど情報端末の急速な普及により、獲得する情報量も増え、その網羅する情報に感嘆されない教育の在り方も検討して頂きたい。 ・ 地域との連携について、コロナ禍の現状で苦慮するところではあるが、伝統文化や芸術の継承活動から、故郷を愛する豊かな心の醸成や希薄化されつつある人間関係づくりに努めて頂きたい。
	2. 地域との連携活動の推進	○ 地域との連携活動の実施率50% ○ 地域で活躍する人の講話等の実施	○ 地域の方々との交流活動・体験活動の実施 ○ キャリア教育支援センターの活用	3.3	2.9	3.4	3.2				
個に応じた指導支援	1. 個が生きる学習指導・支援の充実	○ 陰山メソッド学習8割到達(小学部) ○ 自発的な補充学習の実践(中学部) ○ 自由研究提出100%(小学部高学年以上)	○ 個に応じた課題の設定 ○ 端末を利用した自主学習の実践 ○ 基礎・基本を定着させる支援の充実	3.0	3.1	2.7	2.9	3.0	○ 個が生きる学習指導・支援の充実では、数値目標を達成しておらず与えられた課題は達成しようと努力するが、主体的に学びを求めることができないようである。上記の夢や目標が薄ければ、主体的な学びも消極的にならざるを得ないと考える。 主体的・対話的で深い学習の推進については、自己の考えや思いを相手に伝える自己主張は出来ているが、他者の考えを参考に、深め・広げたり、方向性を変えたりすることは難しい現状にある。 ☆ 個に応じた指導支援を充実させるために、授業改善の4＋4のチェックポイント～全ての子供の確実な学びのために～を再確認し、全ての教育活動において学びの目的を明確にすることで、児童生徒が自由に創造し、学びを止めることなく、主体的に学びを深める授業改善に努める。 さらに、一人一台端末の促進を図り、家庭学習と学校教育もスパイラルを構築したい。	3	・ 小規模校の特性を生かし、個に応じた目標の設定と課題の提示を工夫することで個性の伸長と、学力の定着を図って頂きたい。 ・ 学力について、知識の定着と自ら課題を見いだし解決する力の両輪が重要であり、家庭学習との共通理解・実践を深め児童生徒へ定着させて頂きたい。 ・ 個に応じた指導支援の充実を図って頂きたい。
	2. 主体的・対話的で深い学習の推進	○ 問題解決的な学習指導の実践8割 ○ 児童・生徒のアンケート結果3.0以上	○ 思考力・判断力・表現力の育成 ○ 言語活動の充実	0.0	3.2	2.9	3.1				
自尊尊重	1. 個が生きる教育活動の充実	○ 行事等での充実感・達成感アンケート3.0以上 ○ 自己肯定感アンケート3.0以上	○ 児童・生徒の主体的活動の促進 ○ 認め合う場の設定	3.1	3.6	3.4	3.4	3.3	○ 少人数学校の特性で、幼少期から慣れ親しんだ仲間や学校生活を送ることがほとんどであるが、特設校として校区外の児童生徒在籍も多く人間関係づくりは最重要努力事項である。教科道徳を中心に全教育活動で一人一人の存在価値を高め成就感を味わわせる教育活動に注力した結果の数値が表れている。但し、各地域での交友関係は、中学生になると多少薄れているようである。また、全体的には、家庭での役割を積極的に担うためのお手伝いの数値が低く、学校での係活動の意識を家庭教育にも繋げていく必要があると考える。 ☆ 今年度同様児童生徒理解の充実を図り、一人一人の家族構成や地域との関わりなどの生活環境の把握から学校生活に至るまで、総合的に共通理解できることを最優先とする。さらに、教科道徳の指導方向とキャリアパスポートの活用を徹底し質の高い情報教育の推進を継続しながら、学校教育と家庭教育の接続に注力する。	3	・ 幼い頃から慣れ親しんだ友達や家族、地域住民、そして一人一人に献身的に対応する先生方との人間関係に恵まれ、素直に成長していく児童生徒ではあるが、大人数の場や高校進学など大きな環境の変化に自ら対応できない児童生徒がいることは小規模校の課題である。その課題を克服する為の手段の一つとしてICT教育の充実を図って頂きたい。 ・ 自己肯定感を育む教育の充実から、自信をもった自らの考えや思いを表現できる児童生徒の育成に努めて頂きたい。 ・ 感情をコントロールするなど、メンタル調整のスキルを高めて頂きたい。
	2. 道徳・人権教育の充実	○ 道徳・人権に関わる意識アンケート3.0以上	○ 道徳・人権学習と行事や各教科等との横断的な学習の実践 ○ 道徳・人権に関わる職員研修の充実	3.3	3.2	3.1	3.2				
元気なからだ&脳	1. 体力向上の推進	○ 体力テスト個人結果の体力段階現状維持と2割の児童・生徒の段階向上	○ 保健体育学習の工夫 ○ 授業や業間の活用 ○ 家庭における運動機会の促進	3.0	3.6	3.4	3.3	3.2	○ 保健体育や体育の学習により運動に親しみ、その延長線に身体以外の遊びの活動がある。その結果、運動が好きである数値が高い。但し、地域や家庭ではその様子が見られない結果が出ている。また、健康管理の充実については、上級生になるにつれて睡眠時間の確保が難しいようである。家庭や地域での運動の機会と睡眠時間の減少の要因には、ゲームやSNSの利用による生活リズムの変化があると考えられる。 ☆ 地域や家庭と現状について協議し、コミュニティ・スクールの協力を得ながら運動の機会を確保する取組の充実を図る。併せて、一人一台端末の利用価値と、その利用方法によっては、健康被害の危険性があることについて保護者と学びを深める場を設定する。	3	・ 学校の前を通るときに児童と遊ぶ先生の姿をよく見かけるが、その時の児童は、いきいきと充実した表情をしている。児童に寄り添う先生方の姿に感謝する。 ・ 睡眠時間の確保と適切な生活リズムの確立のために、SNSやゲームなどの利用方法について、各家庭で責任をもたなければならぬ。但し、保護者によっては、こどもが静かになるという短絡的な考えでルールもなく扱っていたり、仕事のためこどもの監督ができず、仕方なく自由に利用させてしまうなどの児童生徒の家庭環境が存在する。そのような課題をみんなで共有し、解決していく場を、学校や保護者が中心となり充実させて頂きたい。 ・ 運動の好きな児童生徒を増やしている学校教育の成果を、家庭や地域でも引き継ぎ、さらに、活動しやすい環境を整えていく必要がある。
	2. 健康管理の充実	○ 生活のリズムができていない児童・生徒9割	○ 自己管理チェックシートの活用 ○ 健康観察の徹底 ○ 保健だよりによる啓発	3.5	3.2	2.8	3.2				